

授業概要

本講義では、中学校社会科及び高等学校公民科教育に関する理論的・実践的な課題について検討し、それを踏まえて自らの社会科・公民教育の教育観・授業観（理想の社会像や市民像）を再構成することを目的とする。具体的には、社会科と公民教育、道徳教育との関係性、学習指導要領と公民教育との関連性、様々な社会科授業観や授業設計の具体について検討し、自らの社会科・公民教育の教育観・授業観（理想の社会像や市民像）を再構成していく。また、ミニレポート課題として、新聞記事などから公民教材を発掘・紹介していく。

社会科・公民教育では、構想したい社会像や育てたい市民像（公民的資質）が問われることになる。本講義を通して、それらがより多くの人々を包摂する社会やその担い手となる市民となることを願いたい。

授業計画

第 1 回	社会科と公民教育——あなたの理想の社会や市民とは？（ふりかえり①）
第 2 回	公民教育と道徳教育の関係性——戦前・戦後の国民・市民形成の歴史
第 3 回	学習指導要領の変遷と社会科授業——制度学習の限界性
第 4 回	新学習指導要領と小中高のカリキュラム構造——中学校社会科・「公共」の役割
第 5 回	中学校社会科と公共の接続①——主権者教育の課題
第 6 回	中学校社会科と公共の接続②——「見方・考え方」とその役割
第 7 回	さまざまな社会科授業のカタチ①——「議論」学習のつくり方
第 8 回	さまざまな社会科授業のカタチ②——「合意形成」と留保条件
第 9 回	さまざまな社会科授業のカタチ③——「社会参画」
第 10 回	さまざまな社会科授業のカタチ④——「外部連携」とカリキュラムマネジメント
第 11 回	市民性教育としての防災教育——シミュレーション学習を事例として
第 12 回	市民性教育としての地域・社会問題学習①対象地域の決定と教材研究；ICT 機器の活用
第 13 回	市民性教育としての地域・社会問題学習②単元プランの構想
第 14 回	公民教育に関する教育方法と教師の役割の転換——哲学対話の重要性
第 15 回	公民教育の展望——私たちが目指す理想の社会や市民とは？（ふりかえり②）
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・公民教育やカリキュラムの歴史的な変遷を踏まえて、その社会像や市民像について説明することができる。
- ・公民教育に関する理論的・実践的な課題の検討を踏まえて、自らの社会科・公民教育の教育観・授業観（理想の社会像と市民像）を構成し、説明することができる。
- ・特定の条件下で、公民教材を発掘し、他者にわかりやすく紹介することができる。

履修上の注意

本講義は、中学校社会科及び高等学校公民科に関する教育法です。なお、教材発掘や単元プランの構想など、授業の時間外での調査や学外施設での調査があることも考慮しておいてください。

予習・復習

講義の中で紹介する関連文献や論文を読み、また生徒が関心をもちそうな教材を発見・紹介しながら、見識を深めることを期待します。また、ミニレポート課題の詳細については、授業の中で示します。

評価方法

- ・筆記試験：40%
- ・ミニレポート、単元プラン：30%
- ・各回の活動・議論、ふりかえりシート：30%

テキスト

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・教科書名：『中学校学習指導要領（平成 29 年告示） 解説 社会編』 ・著者名：文部科学省 ・出版社名：東洋館出版社 ・出版年（ISBN）：2018 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書名：『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示） 解説 公民編』 ・著者名：文部科学省 ・出版社名：東京書籍 ・出版年（ISBN）：2019 |
|--|---|

参考文献：荒井正剛（2022）.『中等教育社会科教師の専門性育成』学文社。
 ハロルド・バーラック他（2021）.『真正の評価』春風社。
 ダイアナ・E・ヘス（2021）.『教室における政治的中立性——論争問題を扱うために』春風社。
 ジェームズ・P・シェーバー他（2019）.『ハーバード法理学アプローチ——高校生に論争問題を教える』東信堂。
 社会認識教育学会（2020）.『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』学術図書出版社。